

## 1972年の日の丸飛行隊と 掃除の時間の思い出



旭川市医師会  
介護老人保健施設フェニックス

工藤 浩市

2020年東京でオリンピックが開催されます。幸運なことに、日本で開催される4回目のオリンピックに居ることができる予定です。TVでたくさんの名場面をみましたが、札幌生まれの私は、やはり1972年（子年）の札幌オリンピックの日の丸飛行隊を思い出します。

切り込み隊長はカミソリジャンパーの金野選手。ポーンという音とともにスタートから飛び出し、両手を前に出したクラウチングスタイルで滑走します。腰を上下し、リズムをとっているようです。「ウァーッ」。飛ぶ時の掛け声は人さまざまでした。飛行中、スキーはぴったりと揃えてあり、着地のテレマーク姿勢がきれいでした。次に青地選手。今のようにヘルメットではなく、ぼんぼりのついたスキー帽でした。なかなかハンサムだった青地選手は、「飛ぶときに口はあけるけど、声は出さないんだよ」と当時同級生の情報通が言っていました。1本目を終わって、笠谷、青地、金野、藤沢と上位を独占し、笠谷選手の二本目のジャンプ。「さあ笠谷、金メダルへのジャンプ」「アアッ」「飛んだ決まった！」冷静なアナウンサーがかなり興奮したようでした。日本金銀銅独占。それまで冬季五輪のメダルは1つだけだったわけでしたから、日本中が歓喜に沸きました。

この様子を、小6男子は放課後の掃除の時間に実況付きで物まねをやるわけです。当時は男子より女子の方が体も大きかったし、大人でしたから、「ちょっと男子ーい、掃除真面目にやりなさいよ」「ちえっ、うるせーなあ、この××××（今の時代では表記できません）」。しぶしぶすしは掃除をするのですが、そのうちにヨーグルトの紙ぶたを何枚も重ねて貼り合わせ、黒いビニールテープで補強したパックと箸で、別なゲームが始まります。「じゃぱーん、あいしんぐ」。意味は知らないけど、よく耳にした言葉を口にしながら。

しかし、夢のような時間は突然終了します。「コラッ、何してんだ！ここに並べ！」。赤鬼のような先生と、フンと薄笑いの女子たち。しょんぼり男子3人は愛情たっぷりのご指導を頂きました。体罰禁止？なんのことでしょう、の時代の思い出と共に。

## とうとう還暦



千歳医師会  
市立千歳市民病院

伊藤 昭英

人生の秋である。あくまで個人の感想だが、長いこと苦勞してきた割に収穫がさっぱり、というものの一つに英語がある。医業もそうだが、と言うと患者さんに失礼かもしれないのでここでは止めておく。小学校低学年の頃だと思うが、当時住んでいた苫小牧市内のキリスト教会で外国人牧師が子供を集めて英語を教えており、母は私をそこに通わせた。嫌ではなかったが、「リンゴは『アップル』のはずなのに『アポウ』と聞こえるのはなぜだ」と悩んでしまい、素直に吸収できない子供だった。中学になると授業で文法を習うようになり、理屈が分かるのは楽しかったが、高校になると習った理屈では説明が難しい言い回しが多くなってきて、いちいち考えこむのだった。こういうタイプは会話が上達しないことを、以後身をもって知ることになる。

英会話学校や教材もいくつか使ったが、今はNHKラジオ第2のみである。この十数年聞き続けている番組が「実践ビジネス英会話」で、題からすると商談の進め方みたいだが、米国での職場の人間関係や社会のトレンドなど多彩な内容で面白い。NHKなので優等生的なセリフばかりのきらいはあるが。去る10月後半の話題は「変容する病院」で、「友人が『マイクロホスピタル』に入院した」という話で始まった。何だそりゃ、と思って聴くと、十数床の1泊用病床を持って、救急、産科、外科などを行う施設とのこと。それで採算がとれるのか、と思うが、従来の総合病院は大きなICUと化しつつある、という話も出てくるので、そちらは費用がかかりすぎることなのか。また、遠隔医療の普及も速いようで、専門医が双方向のビデオを使って複数のICUや新生児室を監督するそう。在宅患者を毎日24時間モニターすることもあるようで、それでかなりレベルの高い治療が受けられるのだそうだが、もし実際何か処置が必要となったら飛んでくるような医療職（NP、PAなど）が充実している、ということなのか。

これらの変革を促しているのは結局のところ経済性とのことだが、この番組では最後に歴史上の人物の名言をとりあげており、そこで「職業は給料をもたらすものではなく、あなたが地上に遣わされた使命である」という画家ゴッホの言葉が紹介されていたのは皮肉だろうか。ゴッホは存命中貧乏だったらしいが。